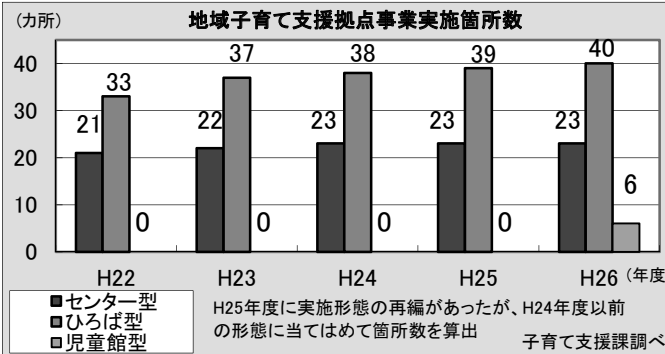
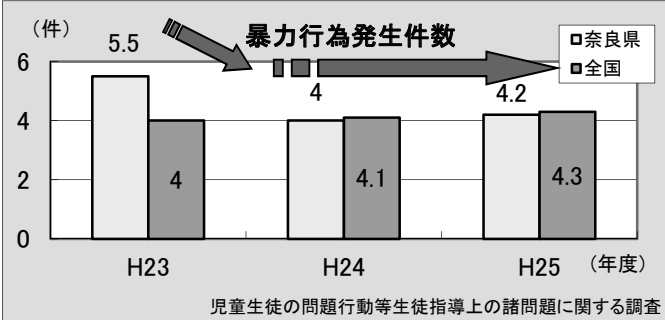
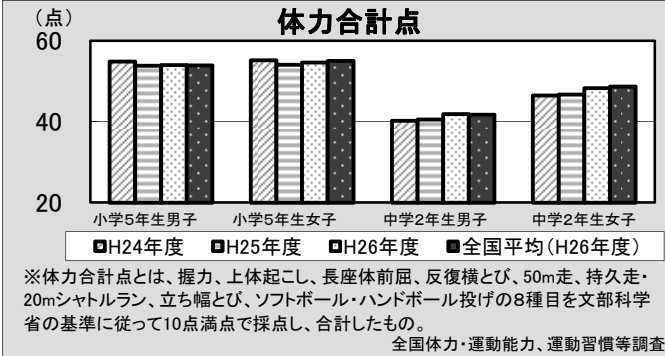


主担当部局(長)名	地域振興部長 一松 旬
関係部局(長)名	南部東部振興監 辻本 浩司、健康福祉部長 土井 敏多、こども・女性局長 上山 幸寛、くらし創造部長 中 幸司、産業・雇用振興部長 森田 康文、農林部長 福谷 健夫、教育長 吉田 育弘、警察本部長 羽室 英太郎

重点課題	Ⅱ くらしの向上 5 学びの支援	目指す姿	子どもの人間力を育て、社会人として親としての学びを支援し、地域の教育力の充実を図ります。また、すべての県民がいきいきと暮らすため、学び続け支えあえる地域社会を目指します。
------	---------------------	------	---

1. 政策課題の進捗状況

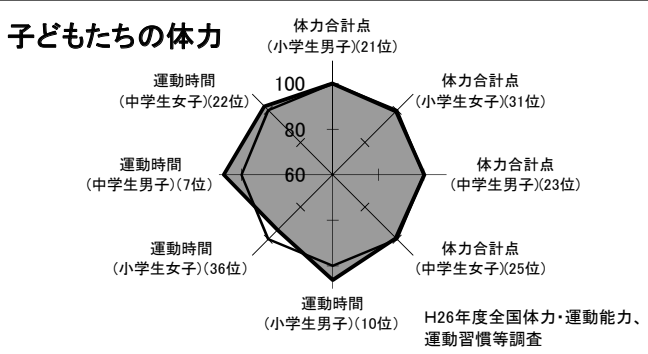
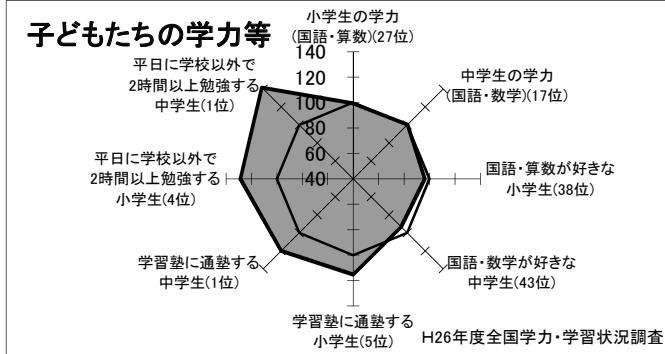


目標	平成28年度までに「規範意識の高い子どもの割合」と「子どもの体力・運動能力」を全国平均に上げます。
取組	・地域ぐるみで取り組む小・中・高校生規範意識醸成事業や学校・家庭・地域が協働する体制整備に取り組みました。 ・幼少期からの外遊びの推奨や運動部活動の活性化等、運動習慣の確立に向けて取り組みました。
成果	毎日運動する習慣づくりや子どもが日頃の力を発揮できる体力テストの実施などにより、小学生の握力、50m走、ソフトボール投げ、中学生の上体起こし、反復横跳びは男女とも全国平均を上回りました。

目標	「児童生徒の暴力行為の発生件数(児童生徒1,000人当たり)」を全国平均以下に維持します。
取組	・学校支援アドバイザーや巡回アドバイザーによる学校への支援や積極的な学校訪問を実施しました。 ・学校サポーター等の配置や、小・中・高等学校等での生徒指導に関する研修会へ指導主事等の講師派遣をしました。
成果	学校支援アドバイザー等の派遣による支援の充実などにより、暴力行為の発生件数は、平成24年度で全国平均を下回り、平成25年度も目標値を維持しました。

目標	平成26年度までに子育てに心理的・精神的な不安・負担を強く感じる母親の割合を10.0%以下にします。(H20年度:19.8%)
取組	地域子育て支援拠点における取り組みを充実しました。
成果	市町村が子育て中の親を支援する地域子育て支援拠点事業の実施箇所数が、平成22年度からの4年間で54力所から69力所に増加しました。

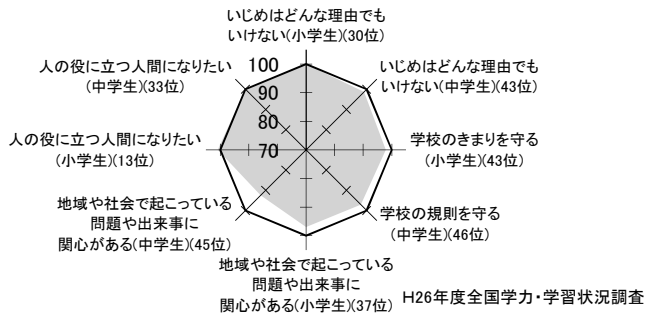
2. 現状分析



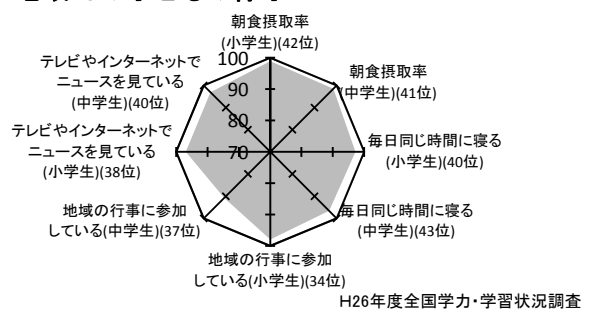
学力は全国平均と比べて同程度ですが、勉強が好きな割合は低位です。学習塾に通っている割合は高く、学校以外でも長時間の勉強をしています。

小学生・中学生の体力はほぼ全国平均レベルまで向上し、特に中学生の体力合計点の伸び率は、全国トップレベルとなりました。1週間の運動時間も、小学生女子以外は、全国平均以上になっています。

子どもたちの社会性、規範意識

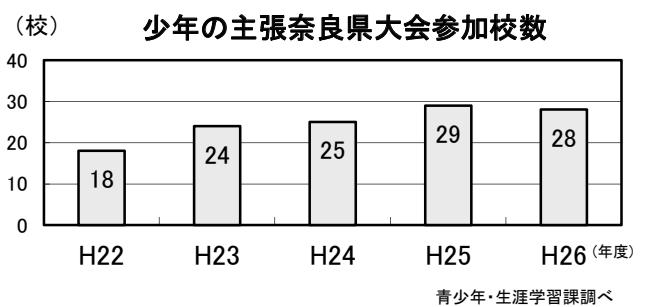
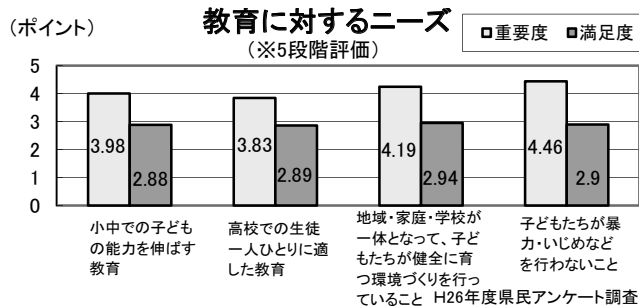


家庭・地域での子どもの様子



規範意識や社会的関心が全国平均より低い傾向ですが、人の役に立つ人間になりたいと思う割合は全国平均と同程度です。

生活習慣面は、全国平均より低い傾向で、課題がうかがえます。地域の行事への参加についても同様ですが、小学校では全国との差が縮まってきています。



重要度が比較的高いものは、「子どもたちが暴力・いじめなどを行わないこと」や「地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること」で、満足度はどの項目も同程度です。

若者が社会に対する関心を持ち、自らの考えを論理的にまとめ表現する機会として、「少年の主張奈良県大会」に参加する中学校等は、全体的に増加傾向にあります。

目的達成のプラス要因	奈良県の持っている強み	内部(内的要因)	奈良県の抱えている弱み
	1 小学生、中学生とも、体力は上昇(体力合計点順位(男女総合) 小学生 H22年度: 46位→H26年度: 25位、中学生 H22年度: 43位→H26年度: 23位) 2 子どもたちは学校以外でも長時間勉強 3 学校と保護者・地域住民が参画・協働して取り組む体制整備は順調(31市町村290カ所事業を実施) 4 大学・短大等進学率は高い(H24年度: 全国7位) 5 家庭の教育費支出は高い(H24年度: 全国6位) 6 総合教育会議、奈良県教育サミットの開催による行政、教育委員会、地域、家庭、学校が一体となった教育や教職員の資質・能力の向上に向けた議論の活発化 7 「平成25年度子育て実態調査」の結果、母親の育児不安・負担感が5年前と比べやや軽減 8 保育士養成課程を有する県内大学(指定保育士養成施設)と県との連携による地域における子育て支援の取り組みを平成23年度から実施 9 文化財、伝統工芸などの文化・学術的資産が豊富	10 子どもたちの学力は、比較的良好だが、勉強好きの子どもの割合が低く、学習意欲に課題 11 学校の規則を守る子どもの割合が全国と比較して低い 12 家の手伝いをする子どもの割合が全国と比較して低い(H25年度 小学生: 全国35位、中学生: 全国33位) 13 若年無業者(家事、学生、求職者除く)率は比較的高い(H24年: 全国8位) 14 小さな子どもとふれ合ったり世話をした経験がなかったりする母親(6歳未満の子どもがいる夫婦の妻)の割合は半数を超える(H25年: 約56%)	
	奈良県への追い風	外部(外的要因)	奈良県への向かい風
	a 県民は「暴力やいじめがない」、「地域・家庭・学校が一体となって、子どもを健全に育てる」ことを望み、小学生の保護者は「落ち着いた学校」で「思いやりの心」、「基礎的な学力」、「社会のマナーやルール」を身に付けさせてほしいと考えている b 大学における社会貢献の期待の高まり c 地域子育て支援拠点事業について、利用者支援・地域支援の機能をもつ「地域機能強化型」を平成25年度に創設 d 平成27年度からの子ども・子育て支援新制度において、市町村は地域子育て支援拠点事業等地域の子ども・子育て支援事業を地域ニーズに基づき計画的に実施 e 国の教育委員会制度の見直し	f 「地域の教育力が低下した」と感じる大人が半数以上(H18年: 56%) g 少子高齢化、核家族化、都市化、情報化、国際化等の社会構造の変化 h 人間関係や地域における連帯意識の希薄化 i 本県において、「お金の使い方」、「コンピュータを使う力」、「英語で会話する力」を学校で身に付けさせてほしいという小学生の保護者のニーズは低い j 地域におけるつながりの希薄化等による子育ての孤立化 k 文化財、伝統工芸などの文化・学術資産について学ぶ場が少ない	

目的達成のマイナス要因

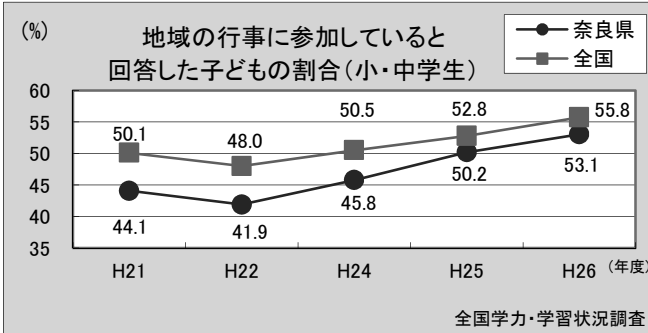
3. 施策課題の進捗状況

戦略1 家庭・地域・学校が協働して、子どもを自立した社会人に育てていくための取り組みを進めます。

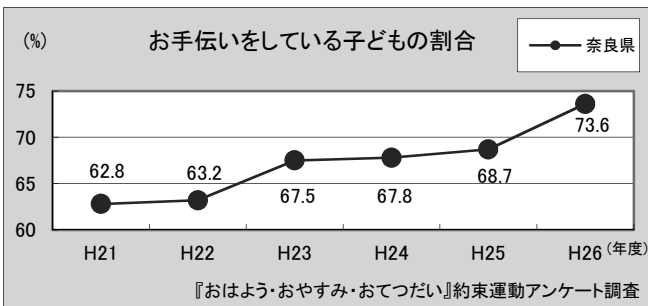
主担当課(長)名 教育委員会企画管理室長 中村 昌史

戦略目標	▶「地域と共にある学校づくり」において、学校コミュニティ(＝奈良モデル)、県立モデルの実施率を向上させ、取組の定着を図ります。(H26年度目標実施率:県内公立小・中学校94.2%、県立学校100%)
------	---

○家庭・地域



取組	学校・家庭・地域が協働して地域ぐるみで子どもたちを育てるとともに、地域とのつながりや絆づくりを推進するため、学校・地域パートナーシップ事業を実施しました。
成果	学校・家庭・地域が協働する取り組みの定着が図られ、地域の行事に参加していると回答した子どもの割合は平成22年度に減少しましたが、その後は増加し、全国平均との差が縮小してきています。



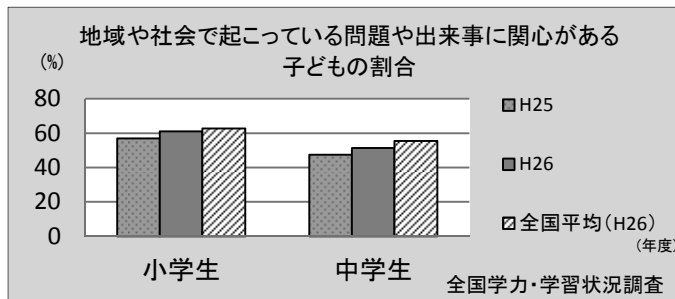
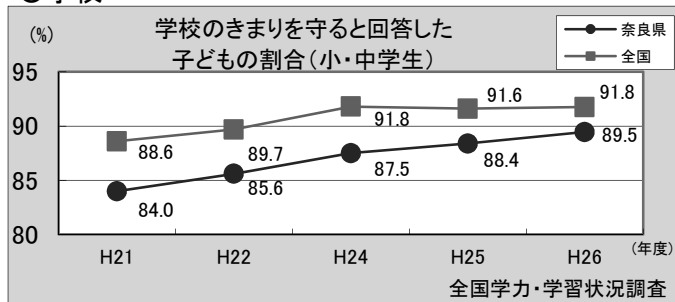
取組	保育所・幼稚園に通う3歳から5歳児を対象に「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動などを実施しました。
成果	約束運動の取り組みなどにより、基本的な生活習慣の定着が図られ、家庭において、お手伝いをしている子どもの割合は、年々増加しており、平成26年度は対前年比で4.9ポイント上昇しました。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
家庭におけるコミュニケーションの拡充や子どもの生活習慣づくり等、家庭教育の充実				
「こども3つのやくそくカレンダー」を提出した子どもの割合(%)	64.9	66.8	61.2	人権・地域教育課
幼児の運動能力・生活習慣等の調査の運動能力評定値 ※評定値とは「3」が標準となる点数の運動4種目の合計値	11.90	11.97	11.99	教育研究所
地域の教育力の充実				
学校・地域パートナーシップ事業の実施箇所数(カ所) ※平成24年度までは学校・地域連携事業	141	189	209	人権・地域教育課
放課後子ども教室開催日数(日)	2,153	2,397	2,751	人権・地域教育課
地域子育て支援拠点事業実施箇所数(カ所)	61	62	69	子育て支援課
子どもと大人でつくる地域のつながり事業実施件数(件)	—	25	29	青少年・生涯学習課

これまでの成果

- ・地域の教育力の向上を図るために、平成23年度から開催している知事を議長に行政、経済界、公私の教育関係者、子どもをもつ保護者などで構成する奈良県地域教育力サミットを11月に開催し、奈良県教育の方向性や全国学力・学習状況調査結果等から明らかになった課題について協議を行いました。
- ・学校・地域パートナーシップ事業等、学校と保護者・地域住民が参画・協働して教育課題の解決に取り組むための体制整備は順調です。(学校コミュニティの取組の平成26年度実施率は、県内公立小・中学校の94.5%に上昇しました。)
- ・「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動は、339の幼稚園・保育所で実施され、運動に参加する子どもの割合は年々増加傾向にあります。(H26年度参加者:19,247人)
- ・県・市町村長サミットを6月、10月に実施し、各市町村長及び教育長が奈良県教育の基礎検討課題の報告をもとに意見交換をしました。

○学校



取組 児童会や生徒会の活動を活用し、地域とも連携したボランティア活動などを実施しました。

成果 学校や社会のきまりやマナーを守ることの意義を理解させ、実践させる取り組みなどにより、学校のきまりを守ると回答した子どもの割合は毎年改善し、全国平均との差は縮まってきました。

取組 公立中学校での職場体験、ボランティア活動、ものづくり体験などを実施しました。

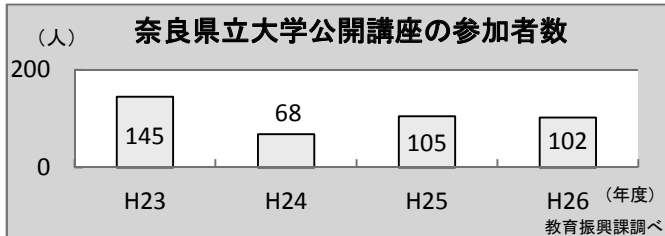
成果 子どもが地域住民と交流する体験的な活動などにより、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある子どもの割合については、全国平均より下位ですが、平成25年度より高くなっています。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
地域の教育力の充実				
就学支援金支給対象者数(人)	14,359	14,558	13,762	教育振興課
授業料軽減対象者数(人)	2,516	2,468	2,877	教育振興課
学校における学習意欲、体力、規範意識等の向上、暴力行為の減少、いじめの解消				
「外遊び、みんなでチャレンジ」への記録登録件数(件)	8,052	7,237	9,169	保健体育課
コミュニティーチャーター活動実施校数(校)	14	13	12	教職員課
新学習指導要領を円滑に実施するための非常勤講師の配置校数(校)	7	7	8	教職員課
運動場が芝生化された公立学校の数(校)	20	20	20	保健体育課
小学生陸上競技記録会、学童水泳記録会への参加児童数(人)	4,141	4,380	4,411	保健体育課
体力向上推進コーディネーターの派遣校数(校)	37	53	65	保健体育課
公立中学校におけるスクールカウンセラーの配置率(%)	42.3	54.8	54.3	生徒指導支援室
高校生社会参加活動の実施回数(回)	1,035	1,095	1,150	生徒指導支援室
スクールサポーターの小・中・高等学校への派遣・訪問回数(回)	1,049	6,025	8,208	少年課
少年の主張奈良県大会応募作品点数(点)	5,882	6,206	5,085	青少年・生涯学習課

これまでの成果

- ・スクールカウンセラーを配置し、各学校のニーズに対応しています。平成26年度の相談による解決・改善率は49.2%です。
- ・平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、中学生の体力合計点の伸び幅は、男子が全国1位、女子が全国2位となりました。小学生の体力については全国平均レベルに上昇しています。
- ・平成25年度のいじめの解消率は、小学校で88.0%、中学校で85.5%、高等学校で87.6%となっています。

戦略目標	▶父親を対象とする子育て教室を平成22年度からの5年間に累計30回開催します。(H24年度末累計:28回) ▶ニート・ひきこもり支援地域ネットワークを構築するために、子ども・若者支援地域協議会を平成27年度までに5地域に設置します。(H25年度:2地域) ▶子育て中の親子の交流や子育ての学びの場である地域子育て支援拠点を平成26年度までに71箇所を増やします。(H24年度:61箇所) ▶奈良県立大学改革を進めます。(H26年4月:新カリキュラム導入 H27年4月:公立大学法人化 H27年3月:(仮称)地域交流棟竣工)
------	---



取組	奈良県立大学の地域貢献として、公開講座等を開催しました。
成果	平成26年度は、県立大学の多彩な教授による講座を11月から3月に3回開催し、102人が参加しました。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
母親力・父親力の向上				
「なら子育て大学」「出張・なら子育て大学」講座開催数(回)	19	28	23	子育て支援課
地域の子育て支援の充実				
うだ・アニマルパークによる「いのちの教育」参加者数(人)	8,448	12,177	14,369	うだ・アニマルパーク振興室
地域子育て支援拠点事業実施箇所数(箇所)	61	62	69	子育て支援課
ニート等の自立支援の充実				
ニート・ひきこもり訪問支援事業の訪問件数(件)	215	208	238	青少年・生涯学習課
「地域若者サポートステーション」相談件数(件)	6,257	7,369	6,913	雇用労政課
野外活動センターの機能充実				
野外活動センター主催事業参加人数(人)	2,094	2,456	6,259	青少年・生涯学習課
生涯学習の推進				
考古学講座参加者数(人)	6,435	5,020	4,579	文化資源活用課
図書館公開講座、講演会等参加者数(人)	3,085	3,207	3,577	文化資源活用課

これまでの成果

- ・生涯学習情報「まなび奈良」として、平成26年度に287件の情報をインターネット等で発信しました。
- ・橿原考古学研究所附属博物館で、平成26年度に考古学講座などを34回開催(4,579人参加)し、広く県民に考古学などについて学習の機会を提供しました。
- ・平成26年度に、県立大学が地域貢献として公開講座を3回開催(102人参加)するとともに、図書館が館長公開講座をはじめ、各種講座を延べ44回開催(3,577人参加)し、広く県民に学習の機会を提供しました。
- ・子育てセミナーのプログラムを普及させるため、平成26年度にモデル教室を3回開催し、41人が参加しました。
- ・県立大学において、魅力ある大学運営を目指すため、平成27年4月の独立行政法人化に向けた中期目標を設定しました。

4. 平成28年度に向けた課題の明確化

＜政策課題の進捗状況＞ ・毎日運動する習慣づくりなどにより、小学生の握力、50m走、ソフトボール投げ、中学生の上体起こし、反復横跳びは男女とも全国平均を上回りました。 ・学校アドバイザー等の派遣による支援の充実などにより、暴力行為の発生件数は、平成24年度で全国平均を下回り、目標値を維持しました。 ・市町村が子育て中の親を支援する地域子育て支援拠点事業の実施箇所数が、取組の定着により、平成22年度からの4年間で54箇所から69箇所に増加しました。	＜奈良県の持っている強み＞ 1 小学生、中学生とも、体力は上昇（体力合計点順位（男女総合）小学生 H22年度：46位→H26年度：25位、中学生 H22年度：43位→H26年度：23位） 2 子どもたちは学校以外でも長時間勉強 3 学校と保護者・地域住民が参画・協働して取り組む体制整備は順調（31市町村290力所で事業を実施） 4 大学・短大等進学率は高い（H24年度：全国7位） 5 家庭の教育費支出は高い（H24年度：全国6位） 6 総合教育会議、奈良県教育サミットの開催による行政、教育委員会、地域、家庭、学校が一体となった教育や教職員の資質・能力の向上に向けた議論の活発化 7 「平成25年度子育て実態調査」の結果、母親の育児不安・負担感が5年前と比べやや軽減 8 保育士養成課程を有する県内大学（指定保育士養成施設）と県との連携による地域における子育て支援の取り組みを平成23年度から実施 9 文化財、伝統工芸などの文化・学術的資産が豊富	＜奈良県の抱えている弱み＞ 10 子どもたちの学力は、比較的良好だが、勉強好きの子ども割合が低く、学習意欲に課題 11 学校の規則を守る子どもの割合が全国と比較して低い 12 家の手伝いをする子どもの割合が全国と比較して低い（H25 小学生：全国35位、中学生：全国33位） 13 若年無業者（家事、学生、求職者除く）率は比較的高い（H24年：全国8位） 14 小さな子どもとふれ合ったり世話をした経験がなかったりする母親（6歳未満の子どもがいる夫婦の妻）の割合は半数を超える（H25年：約56%）
＜施策課題の進捗状況＞ ・学校・家庭・地域が協働して地域ぐるみで子どもたちを育てるための体制整備は順調で、地域の行事に参加していると回答した子どもの割合は増加しました。 ・家庭の教育力向上を目指した取り組みの定着により、お手伝いをしている子どもの割合は増加しました。 ・地域と連携したボランティア活動等の定着により、学校のきまりを守ると回答した子どもの割合は改善し、全国平均との差は縮まってきました。 ・奈良県立大学の地域貢献として、県立大学の多彩な教授による公開講座を3回開催し、102人が参加しました。		
＜奈良県への追い風＞ - a 県民は「暴力やいじめがない」、「地域・家庭・学校が一体となって、子どもを健全に育てる」ことを望み、小学生の保護者は「落ち着いた学校で」「思いやりの心」、「基礎的な学力」、「社会のマナーやルール」を身に付けさせてほしいと考えている - b 大学における社会貢献の期待の高まり - c 地域子育て支援拠点事業について、利用者支援・地域支援の機能をもつ「地域機能強化型」を平成25年度に創設 - d 平成27年度からの子ども・子育て支援新制度において、市町村は地域子育て支援拠点事業等地域の子ども・子育て支援事業を地域ニーズに基づき計画的に実施 - e 国の教育委員会制度の見直し	＜強みで追い風を活かす課題＞ 【重要課題】子どもたちの体力向上のための取り組みの推進（1,a） 【重要課題】地域の教育力の向上のための取り組みの推進（3,6,a,e） 【重要課題】奈良県教育大綱等の策定（1,3,4,5,6,b,e） 【重要課題】県立大学改革の推進（6,b） ・教職員の資質・能力の向上（2,4,5,6,a）	＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞ 【重要課題】子どもたちの規範意識・社会性の向上のための取り組みの推進（11,12,a） 【重要課題】いじめ防止対策の推進（11,a） ・子どもたちの学習意欲の向上のための取り組みの推進（10,a） ・子どもたちの生活習慣の改善と家庭におけるコミュニケーションの促進（12,a） ・家庭の子育て力の向上（14,c,d）
＜奈良県への向かい風＞ - f 「地域の教育力が低下した」と感じる大人が半数以上（H18：56%） - g 少子高齢化、核家族化、都市化、情報化、国際化等の社会構造の変化 - h 人間関係や地域における連帯意識の希薄化 - i 本県において、「お金の使い方」、「コンピュータを使う力」、「英語で会話する力」を学校で身に付けさせてほしいという小学生の保護者のニーズは低い - j 地域におけるつながりの希薄化等による子育ての孤立化 - k 文化財、伝統工芸などの文化・学術資産について学ぶ場が少ない	＜強みで向かい風を克服する課題＞ 【重要課題】地域の教育力の向上のための取り組みの推進（再掲）（3,6,f,g,h,j） ・（仮称）奈良県国際芸術家村の検討（9,k）	＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞ ・ニート等の自立支援の充実（13,h）

5. それぞれの課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
【重要課題】子どもたちの体力向上のための取り組みの推進	・毎日運動する習慣を確立します。（「外遊びみんなでチャレンジ」の実施や業前・業間遊びの充実） ・各学校での体力向上推進計画策定を更に推進します。 ・幼稚園・高等学校の芝生化を推進します。 ・武道・ダンスの授業に専門的な指導者を派遣し、教員の授業力を高める取り組みを実施します。
【重要課題】地域の教育力の向上のための取り組みの推進	総合教育会議や奈良県教育サミットを開催し、奈良県教育の振興に向けての基本的方向性を検討します。
【重要課題】奈良県教育大綱等の策定	奈良県の地域事情に応じた教育、文化、学術の振興を図るため、奈良県教育大綱等を策定します。
【重要課題】県立大学改革の推進	県立大学の中期目標達成に向けた取組支援、地域交流の拠点となる施設整備を推進します。
教職員の資質・能力の向上	子どもの学力及び学習意欲の課題の解決を目指し、若手教職員研修の充実を図るなど、教職員の資質・能力の向上につながる取り組みを行います。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
【重要課題】子どもたちの規範意識・社会性の向上のための取り組みの推進	・地域と連携したボランティア事業を実施します。 ・生徒指導支援アドバイザー、学校巡回アドバイザーの派遣やいじめ相談員による学校支援を行います。 ・小・中・高等学校等での生徒指導に関する研修会を実施します。 ・うだ・アニマルパークで「いのちの教育」を実施します。 ・スクールカウンセラーの活用について更なる充実を図ります。
【重要課題】いじめ防止対策の推進	いじめ防止対策推進法に則ったいじめ防止対策を推進します。
子どもたちの学習意欲の向上のための取り組みの推進	・児童生徒の学習意欲の向上などを図る学校改善支援プランを改訂するとともに活用を一層推進し、説明会や学力向上フォーラムにおいて周知します。 ・児童生徒向けの各種問題や授業モデルの動画などを教員に提供します。 ・本県独自の奈良県学力・学習状況調査を実施します。 ・中学校区単位での小・中学校合同の研修に指導主事を派遣します。 ・学び続ける教職員を育成するために教職員研修を充実させます。
子どもたちの生活習慣の改善と家庭におけるコミュニケーションの促進	子どもの生活習慣の向上や規範意識、社会性の醸成を図るため、「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動及び「ありがとう！」の言葉で親子のコミュニケーションと自己有用感を育てる取り組みを実施します。
家庭の子育て力の向上	・子育て支援プログラム「乳児期編」「祖父母編」「幼児期編」等の普及や従事者研修を通じ、地域子育て支援拠点の取り組みの充実を支援します。 ・県内大学との連携により、「なら子育て大学」及び「出張・なら子育て大学」の取り組みを拡充します。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
【重要課題】地域の教育力の向上のための取り組みの推進（再掲）	・平成24年度から推進する「地域と共にある学校づくり」を更に定着させ、教育課題の解決のために学校と保護者・地域住民が参画・協働する具体的な取り組みを充実させます。 ・学校と警察との連携を更に強化し、生徒指導体制の充実に取り組みます。
（仮称）奈良県国際芸術家村の検討	・文化・芸術の専門領域を越えた交流や国際交流が期待できる国家的な文化・芸術分野の中核的な拠点となるよう検討を進めていきます。 ・県民が様々な文化・芸術に触れることができる研修、体験、展示機能をもった施設として活用できるよう検討を進めていきます。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
ニート等の自立支援の充実	・ニートひきこもり支援の地域ネットワーク構築を推進します。 ・「ひきこもり相談窓口」を設置し、効果的な支援策を検討することにより、ニート等の自立を支援します。

6. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
教職員の資質・能力の向上	子どもの学力及び学習意欲の課題の解決を目指し、従来の初任者研修や10年経験者研修に採用2年目から3年目対象のフレッシュアップ研修等を加え、若手教職員研修の充実を図るなど、教職員の資質・能力の向上につながる取り組みを今まで以上に強化しました。